

## 今日の説教のポイント<ヨハネによる福音書1章1~18節>

今日の説教では、イエス様の誕生の出来事の次第をそのまま追うのではなく、むしろその出来事が持つ意味を追うことに力を注いでいる「ヨハネによる福音書」を取り上げます。真の神様がどのようなお方であるか、何をして下さったのかを考えます。

以下は、あるキリスト教団体の通信文の巻頭言に書いた一部です。説教で考える「神様が為して下さったこと」に対して、「私たちがそれに応答して生きることの大切さ」について書いたものです。

### 「クリスマスに思う」

**「闇の中を歩む民は、大いなる光を見、死の陰の地に住む者の上に、光が輝いた」**（イザヤ9章1節）

今年もクリスマスを迎えようとしています。色んな出来事があったこの一年。残念ながら、今年も人間の罪が多く悲しみや苦しみ、そして絶望を生み出した年でした。しかし、そんな年の瀬に、最初のクリスマスの晩に神様が闇の中を歩む民に大いなる光を与えて下さったことを思う時、人間が起こす絶望は神様によって必ず打ち破られるのだということに思いは変えられて行くのです。

**「さあ、ベツレヘムへ行こう。主が知らせてくださったその出来事を見ようではないか」**（ルカ2章15節）

聖書のクリスマス物語は、羊飼いたちが神様の示しに応じて動き出したことを伝えています。東方の博士たちも同じです。「わたしたちは東方でその方の星を見たので、拝みに来たのです」（マタイ2章2節）。人間の起こした絶望状態が人間の手で回復できるかどうかは分かりません。しかし、神様がその回復に乗り出される時にそれは可能となります。その時に、人もまたそれに応えて動き出さなければならないことをこれらの箇所は教えています。死の陰の地に住む者の上に光が輝くのはそのような時でしょう。